

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|----------|----|------|-----------|------|----|-----|---|-----------------|----------|
| 授業科目 | 保育実習指導Ⅱ | | | | 実務家教員担当科目 | - | | | | | |
| 単位 | 1. | 履修 | 選択 | 開講年次 | 4 | 開講時期 | 通年 | | | | |
| 担当教員 | 金谷 めぐみ | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>保育所保育士としての実務経験を基に保育実習Ⅱに臨むにあつての姿勢・心構えについて確認する。保育所の機能・役割、子どもを理解する視点、保育士に求められる知識と技術について確認する。事前学習を深め、各自の実習課題を明確にする。実習記録の書き方、保育指導案や個別支援計画の立案について学ぶ。守秘義務や危機管理について確認する。実習に必要な書類の作成や事前訪問などを実行する。実習後は個別面接により実習の振り返りを行い、実習での学びを整理し、実習報告会にて発表する。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 授業方 | | 法 | | | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | | | | | | | | |
| 標準的 レベル | <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に臨むにあつての姿勢・心構えを身につけている。 2. 保育所の機能・役割と保育士の業務について理解している。 3. 子どもを理解する視点を理解している。 4. 保育に関する知識や技術を実践し、適切な実習記録や指導案を作成することができる。 5. 守秘義務や危機管理などを理解し、専門職としての自覚に基づいた行動ができる。 6. 実習での体験や保育活動を専門的技術として概念化し、体系立てていくことができる | | | | | | | | | | |
| 理想的 レベル | 標準的なレベルの1～6に到達したうえで、自己の課題を明確にし、その改善に向けた取り組みを実行できる。 | | | | | | | | | | |
| 評価方法・評価割合 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | | 評価割合（数値） | | | | 備考 | | | | | |
| 試験 | | | | | | | | | | | |
| 小テスト | | | | | | | | | | | |
| レポート | | 10% | | | | | | | | | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | | 55% | | | | | | | | | |
| レポート外の提出物 | | 10% | | | | | | | | | |
| その他 | | 25% | | | | | | | | | |
| カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング | | | | | | | | | | | |
| DP1 | ○ | DP2 | ○ | DP3 | ○ | DP4 | ○ | DP5 | ○ | ナンバリン グ | WE21631J |
| 学習課題（予習・復習） | | | | | | | | | | 1回の学習目安 （時間） | |
| 明確な課題をもって実習に臨むための事前学習計画をたて、事前学習の準備を進める。 | | | | | | | | | | 1 | |
| 授業計画 | | | | | | | | | | | |
| 第1回 | <p>テーマ：オリエンテーション</p> <p>実習に臨む心構え、授業の進め方、事前学習を行って理解しておくべきこと、各自が明確な課題をもって実習に臨むための準備を進めていくことを確認する。</p> | | | | | | | | | | |
| 第2回 | テーマ：事前学習計画の確認と書類作成 | | | | | | | | | | |

| | |
|------|---|
| | 事前学習計画を確認し、事前学習テーマを決定する。実習生紹介票、実習誓約書、実習計画書の書き方について指導する。 |
| 第3回 | <p>テーマ：子ども理解の視点について</p> <p>子ども理解の視点について代表的な観察技法を用いて理解を深め、グループワークでポイントを整理する。</p> <p>実習書類の作成についても個別指導を行う。</p> |
| 第4回 | <p>テーマ：子ども理解の視点について</p> <p>グループワークのまとめを発表し共有する。各自の実習課題とむすびつけ、さらに事前学習を深めるべき事項について確認する。</p> |
| 第5回 | <p>テーマ：実習記録の書き方と事前訪問について</p> <p>保育実習1の記録を振り返りながら実習記録の書き方について指導する。危機管理について確認し、実習記録の記述の中に危機管理の視点が表れているかどうかを確認する。事前訪問についての指導も行う。</p> |
| 第6回 | <p>テーマ：実習先で求められる保育の技術</p> <p>実習先で求められる保育の技術について実践し、指導する。</p> |
| 第7回 | <p>テーマ：実習先で求められる保育の技術</p> <p>実習先で求められる保育の技術について実践し、指導する。</p> |
| 第8回 | <p>テーマ実習前直前指導</p> <p>注意事項、緊急時の対応について、巡回訪問について等の確認と各自の実習課題についての再確認を行う。</p> |
| 第9回 | <p>テーマ：実習後個別面接と実習の振り返り</p> <p>個別面接を実施し、実習での学びを振り返る。実習での体験や保育活動を概念化し体系立てて、実習報告会の発表準備をすすめる。</p> |
| 第10回 | <p>テーマ：実習報告会</p> <p>実習での体験や保育活動を概念化し体系立てて報告する。自分自身の実習施設以外の児童福祉施設で実践される保育・養護活動と多様な福祉的課題に関心を持ち、他者の発表を聞き共有する。</p> |
| 第11回 | <p>テーマ：実習報告会</p> <p>実習での体験や保育活動を概念化し体系立てて報告する。自分自身の実習施設以外の児童福祉施設で実践される保育・養護活動と多様な福祉的課題に関心を持ち、他者の発表を聞き共有する。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| 第12回 | <p>テーマ：実習報告会</p> <p>実習での体験や保育活動を概念化し体系立てて報告する。自分自身の実習施設以外の児童福祉施設で実践される保育・養護活動と多様な福祉的課題に関心を持ち、他者の発表を聞き共有する。</p> |
| 第13回 | <p>テーマ：実習報告会</p> <p>実習での体験や保育活動を概念化し体系立てて報告する。自分自身の実習施設以外の児童福祉施設で実践される保育・養護活動と多様な福祉的課題に関心を持ち、他者の発表を聞き共有する。</p> |
| 第14回 | <p>テーマ：実習報告会</p> <p>実習での体験や保育活動を概念化し体系立てて報告する。自分自身の実習施設以外の児童福祉施設で実践される保育・養護活動と多様な福祉的課題に関心を持ち、他者の発表を聞き共有する。</p> |
| 第15回 | <p>テーマ：実習報告会</p> <p>実習での体験や保育活動を概念化し体系立てて報告する。自分自身の実習施設以外の児童福祉施設で実践される保育・養護活動と多様な福祉的課題に関心を持ち、他者の発表を聞き共有する。</p> |
| テキスト | <p>「保育実習マニュアル」 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科 子ども家庭福祉コース</p> |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針解説書 厚生労働省 ・全国保育士会倫理綱領 全国保育士会 ・保育士のための福祉施設実習ハンドブック 小野澤昇・田中利則 編著 ミネルヴァ書房 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | <p>実習前のレポート課題にコメントをつけて返却する</p> <p>レポート外の提出物に点数およびコメントをつけて返却する</p> <p>実習後の報告会での発表・実習日誌にコメントをつけて返却する</p> <p>実習先からの評価を元に個人面談を行う</p> |
| 学生へのメッセージ・コメント | <p>子どもの発達理解のために必要な資料や先行研究に目を通しておく。乳幼児の観察のための技法を身につけておく。保育に関する知識と技術を復習し理解しておく。</p> <p>実習に関連する資料として事前学習で用いた資料は一冊のファイルに綴じておきましょう。実習中の考察や実習後の振り返りにも役立ちます。</p> |